

国際シンポジウム・ワークショップ

人間科学と平和教育

～ 体験的心理学を基盤とした
歴史・平和教育プログラム開発の視点から～

このシンポジウムは、東アジアにおける新たな歴史・平和教育プログラムの開発をめざす国際プロジェクトの一環として行われる。同プロジェクトでは、アメリカで長年平和教育に従事してきた臨床心理家Armand Volkas氏が開発しドイツ人とユダヤ人をはじめ様々な民族間対立の解決方法として注目されているHealing the Wounds of the History(HWH)プログラムを、東アジアの歴史的文化的背景を考慮し、新たな形で開発することをめざしている。

国際シンポジウムでは、HWHプログラムの基本的枠組みを紹介し、その実践における課題を国内外の平和教育研究者とともに探っていく。まず第一部において、2011年10月に南京で行った国際会議「南京を思い起こす2011」においてHWHプログラムを実践した成果を報告する。続く第二部では、関連専門分野の研究者から意見をもらい、第三部で全体討論を行うことで、このプログラムを新たな歴史・平和教育プログラムへと発展させていく方法を探っていく。

続いて、5月4日・5日に行う「こころとからだで考える歴史と平和」ワークショップでは、アマンド・ボルカス氏をファシリテーターとして、アジアと日本の若い世代がHWHプログラムを体験する。この二日間のワークショップでは、日本とアジアの戦後世代が、それぞれが継承してきた戦争体験を分かちあうことを通して、互いの歴史体験への理解を深め、二一世紀の日中関係のあり方を探っていく。

国際シンポジウム：「人間科学と平和教育」

報告者：張連紅(南京師範大学) 村本邦子(立命館大学)
Armand Volkas (CIIS)

コメンテーター：

加國尚志(立命館大学国際平和ミュージアム副館長)
中村正(立命館大学) 大門高子(東京紫金草合唱団)

司会：村川治彦(関西大学)

日時：2012年4月28日(土) 午後1時～午後5時半

会場：立命館大学国際平和ミュージアム(アカデミア立命21)
中野記念ホール

ワークショップ：「こころとからだで考える歴史と平和」

ファシリテーター：Armand Volkas (CIIS)

日時：2012年5月4日(金)・5日(土) 午前10時～午後5時

会場：立命館大学国際平和ミュージアム2F会議室

定員：20名(事前にお問い合わせください)

問い合わせ先：立命館大学大学院応用人間科学研究科 独立研究科事務室
075-465-8375(平日9時～5時半)

主催：立命館大学大学院応用人間科学研究科

後援：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：立命館大学人間科学研究所

この国際シンポジウムは、科研費基盤研究(B) 研究課題番号:23310189(責任者:村本邦子)「日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発」の助成を受けています。

国際シンポジウム「人間科学と平和教育～体験的心理学を基盤とした 歴史・平和教育プログラム開発の視点から～」

プログラム： 午後1時 「南京を思い起こす2011」報告
午後3時 合唱朗読構成「紫金草物語」
午後3時半 コメンテーターによるコメント
午後4時半 プロジェクト参加研究者およびフロアとのディスカッション
午後5時半終了

報告者：

張連紅（南京師範大学教授 歴史学）

南京大虐殺研究センター主任。中日網編集主幹。南京虐殺に関する中国側の研究において、従来の枠組みにとられない新しい実証的潮流を代表する研究者。

Armand Volkas (CIIS 准教授 ドラマセラピスト)

アウシュビッツからの生存者を両親にもち、ドラマセラピーの手法を使った独自の平和教育プログラムを開発。ドイツ人とユダヤ人、トルコ人とアルメニア人など様々な対立するグループの和解に取り組んでいる。

村本邦子(立命館大学応用人間科学研究科教授 臨床心理学)

二十年に渡る開業臨床に基づき、虐待、DV、性暴力など個人レベルのトラウマから、コミュニティのトラウマ、歴史のトラウマまで、回復支援、予防、研究に取り組む。

コメンテーター：

加國尚志（立命館大学文学部教授 哲学）

立命館大学国際平和ミュージアム副館長。立命館大学人文科学研究科研究プロジェクト「暴力からの人間存在の回復」代表。メルロ＝ポンティの哲学を中心としたフランス現代哲学の研究を行っている。

中村正(立命館大学応用人間科学研究科教授 社会学)

暴力の臨床を行いながら研究をしている。贖罪と謝罪、修復と回復、和解と責任等のための「社会臨床学」を構想している。

大門高子(東京紫金草合唱団)

地域の歴史や環境、平和をテーマに合唱組曲やミュージカル 絵本などを創作、集いや音楽会等を企画演出。合唱組曲は「大きな樹」「未来への選択」「桜とハナミズキ」「再生の大地」等20本。日本演劇教育連盟全国委員。元小学校教師。

紫金草合唱団 合唱朗読構成「紫金草物語」～不忘歴史 面向未来～より抜粋

作詞 大門高子 作曲 大西進 編曲 山下和子・張勇
紫金草とは花だいこん、諸葛菜、紫花菜などと呼ばれている紫色の美しい野の花です。この花は、日中戦争当時、南京郊外紫金山の麓から日本に持ち帰り鎮魂と平和を願って捲き広めてきた花です。この花の由来を絵本「むらさき花だいこん」と合唱曲にしました。この歌を中心に歌う合唱団が大阪・奈良・金沢・東京・府中・千葉・宮城・茨城などにあり活動しています。団員は主婦・教師・保母・退職者などのアマチュア。この10年に数百回の国内公演、7回の訪中公演(南京・北京・上海)に取り組み、中国では市民や大学生と一緒に演奏会や交流を続けています。(下記は南京理工大学の和平園の紫金草)



国際プロジェクト参加研究者：

池内靖子（立命館大学産業社会学部教授 パフォーマンス研究）
小田博志（北海道大学准教授 文化人類学）
笠井綾（CIIS博士課程 クリエイティブアーツセラピー）
金丸裕一（立命館大学経済学部教授 日中関係史）
吉沅洪（立命館大学応用人間科学研究科教授 臨床心理学）
陶琳瑾（南京師範大学研究員 臨床心理学）
村川治彦（関西大学人間健康学部准教授 身体教育学）

ワークショップ「こころとからだで考える歴史と平和～東アジア型HWHの構築に向けて」

ファシリテーター： Armand Volkas (CIIS)



地震や台風などの自然災害が身体だけでなく心にも大きな傷を残すように、戦争体験もまた私たちの心の奥深くに大きな傷を残します。そうした戦争のトラウマは、たとえ言葉で語り継がれなくとも、様々な形で次の世代へと継承され、私たちの人間としてのあり方に大きな影響を与えます。戦後60年以上が経ち、第二次世界大戦が過去のものとして忘れられようとしている今だからこそ、私たち日本人がこれまで気づかないまま継承してきた(知らないで済ましてきた)戦争体験に光を当て、その傷を癒し、未来に向けて歩み出すことが必要です。

このワークショップでは、アメリカで長年平和教育に従事してきた臨床心理家アマンド・ボルカス氏を迎え、日本と中国の若い世代が戦争体験を探っていきます。日本と中国の若者それぞれが、継承してきた戦争体験を分かちあうことを通して、互いの歴史体験への理解を深め、21世紀の新たな日中関係を構築していきます。

お問い合わせ：

立命館大学大学院応用人間科学研究科(独立研究科事務室)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-8375 FAX:075-465-8364
(受付:平日9時～17時半)